

元米軍慰安婦122人が韓国政府を集団提訴したことでクローズアップされた韓国の「基地村（売春街）」問題は、日本軍による強制連行をでっちあげ、国際社会に慰安婦問題を喧伝してきた朴槿恵政権にとって大きな頭痛の種となっている。今後、韓国政府が関与を認めれば国際世論の非難を浴びるだけでなく、重要な対日カードを失うことになるからだ。国家主導で行なわれてきた管理売春の実態と基地村の今を現地リポートする。

*

「給料は月500ドル。8人の同僚と店の2階に住んでいる。休日は月に2日。外出も制限されていて、街の外に出ることはほとんどできない」

そう話すのは、京畿道・東豆川に今も残る「基地村」でホステスとして働く20代前半のフィリピン人女性だ。

「韓国での仕事は正直つらい。私たちは客（米兵）の酒の相手をするだけでなく、セクシヤルなサービスをしなければならぬ」――。

1950～53年の朝鮮戦争時代に作られた基地村は、休戦後も在韓米軍向けの売春窟として存続し、韓国政府の貴

これが 朴槿恵がヒタ隠す韓国の「恥部」を暴く 韓国「米軍慰安婦」が 働く「アメリカ通り」だ!!

～ホステスは米兵にまたがり
ディープキスやペッティングを続けていた～

韓国在住ジャーナリスト

藤原修平 FUJIWARA Shuhei と本誌取材班

〈潜入ルポ〉



東豆川の基地村は「アメリカ通り」と呼ばれる。

の関与が決定的となったのだ。この6月に集団訴訟に踏み切った元米軍慰安婦の韓国人女性たちは「国による管理売春で人権を侵害された」として1人当たり1000万ウォン（約100万円）の国家賠償を求めている。彼女たちを支援する人権団体のひとつ、「セウムタ」代表が6月25日放送の韓国・CBSラジオで語った内容を抜粋、紹介する。

「米軍慰安婦は地元警察に登録した上で米兵向けのクラブで働かされ、客に酒をねだるよう教育された。酒の仕入れ先は地元の自治体で、酒が消費されるほど自治体や基地村

重な外貨稼ぎの手段となった。そこでは人権を無視した管理売春が横行し、多くの女性に恥辱と苦痛を与えた。韓国政府はこれまで政府の関与を認めていなかったが、昨年、基地村管理の指針を示す朴正熙大統領の署名入り書類が公開されたことで、国

政策を主導する政府にドルが流れる構図だ。彼女たちは売春も強要された。店から逃げ出し警察に駆け込んでも「基地村に戻れ」と言われるのが落ちだった。基地村を訪れた首長は女性たちを（外貨を稼ぐ）「愛国者」と讃えていた」

米軍慰安婦になった女性の中には、暴力団や仲介業者などに騙され基地村にやって来た者も少なくなかった。7月5日付の韓国紙「ハンギョレ」の取材に答えた50代の元米軍慰安婦は、

「16歳のとき、友人に紡績工場の仕事を紹介されヨンジュコルという町に来た。そこにあったのは米軍基地と売春街だった。紹介された50代の女性に『お前の友だちが作った借金を肩代わりして返すまで、ここからは出られない』と言われ騙されたことに気づいた。毎日米兵相手に性器が痛くなるほど働いても、客からもらった金はオーナーがすべて持って行ってしまった。性病が発覚すると、東豆川の『白い家』と呼ばれる性病管理施設に収容された。施設には鉄格子があり、まるで刑務所のようなどころだった」

と、生々しい管理売春の実



店先に立ち客を引くホステス。多くはフィリピンからの出稼ぎ女性だ(東豆川の基地村。下も)。



ホステスはチップの見返りに過激なサービスを要求されることもある。

りを強化してからはほとんどない」という。

だが、本誌記者は複数のナイトクラブで今も露骨な性的サービスが行なわれていることを確認した。ある店ではカウンター席に着くと、5

分も経たないうちにホステスから「Buy me drink」と飲み

物をねだられた。ホステスに飲み物を奢れば30分

間、会話ができるシステムで、

料金はワンショットのテキーラが2万ウォン(約2000円)、ビールの小瓶が6万ウォン(約6000円)と高額

だ。ホステスは、別途4万ウォン(約4000円)で密着サービスが受けられるテーブル席の利用をしきりに促す。

暗がりのテーブル席では、別のホステスが米兵の股間部に跨り、ディープキスやペッティングなどの過激な行為に及んでいた。米兵がチップを弾むと行為はさらにエスカレ

ートしていく。店内での売春行為は確認できなかったが、常連の米兵がお気に入りのホステスを店外に連れ出すことは珍しくないという。

実際、記者はクラブホステスが軍服姿の米兵と基地村のモーターに入る現場を目撃している。

基地村では韓国警察の姿を見かけない

彼女たちの大半はフィリピン女性で「芸能ビザ」で就労しているという。ホステスの1人が本音を漏らす。

「私は歌手として来たのに、客にお酒を飲ませて利益を上げることはかり求められる。

売り上げが悪ければオーナーに怒られるから、嫌でも性的サービスをしてお金を使ってもらうしかない」

ホステスの月給は日本円で約5万円前後で、一般的な韓国人サラリーマンの平均月収の4分の1に満たない。韓国への渡航費用や業者の仲介料は店が立て替えるケースが多く、返済分が天引きされれば手元にはほとんど残らないという。

「ホステスへの暴力や性的サービスの強要は根絶されず、

逃亡を防ぐため店側が金銭やパスポートを管理するケースも多い。ここ数年、基地村での外国人ホステスの人権侵害が問題視されるようになり米軍が取り締まりを強化したのは事実だが、本質はまったく変わらない(韓国紙記者)

本誌取材中も米軍のMP(憲兵)が基地村を見回っていたが、ホステスたちは「基地村で韓国の警察は1度も見たことがない。MPと一緒に回っているのは(司法権限のない)保安要員」と話していた。

ここ数年、基地村での売買春は減りつつあるが、それは韓国政府の努力によるものではない。米兵の犯罪増加で米軍が取り締まりを強化したからだ。韓国政府は外貨獲得のため、長らく基地村での売春行為を黙認、放置してきた。現在では韓国人女性に代わり、フィリピン女性が「米軍慰安婦」として米兵相手の性的サービスを強いられている。

韓国政府が主導した米軍慰安婦制度は、多くの「性奴隷」を生み出した。朴槿恵大統領は基地村に慰安婦像を設置し、父が関与した恥ずべき国策を懺悔するべきではないか。

態を明かした。東豆川の「性病管理施設」は韓国政府管理下で96年まで存在していたことが確認されている。

米兵相手の過激な行為を目撃

東豆川は在韓米軍基地がある以外、これといった特色のない町だが、基地村のある地域は「アメリカ通り」と呼ばれ、外国人観光特区に指定されている。立ち並ぶ外国人専用のナイトクラブはどの店もアメリカの田舎町にあるバー